

福井県立大野高等学校



ゆい
JRC「結」



高校生ボランティア・アワード2024

ふるさとの恵みでお助け ～「水」と「繊維」と「すこスコーン」～ 大野市の 資源・特産物 を生かし 国際支援と町おこし を行っています。

- ① 「名水マラソン」「合唱チャリティー」を通して東ティモールへ給水設備を支援。
 - ② 「古着おすそわけプロジェクト」で繊維の町からパキスタンの学校運営を支援。
 - ③ 多世代・伝統文化を「つなぐプロジェクト」特産品 里芋の茎を酢漬けにした郷土料理「すこ」をアップサイクルし、英国風スイーツを開発。「シン・ふるさとスイーツ『すこスコーン』」町おこしと東ティモール水支援を実施中。
- ・エコ活動「エコキャップ回収」「古本市」：環境保護、途上国医療支援、高齢者・障がい者 雇用促進
 - ・「お年寄りスマホ操作サポーター」：大野市福祉協議会と連携
 - ・「七間商店街ハロウィン」×オレンジリボン運動（子ども虐待防止啓発）×あしなが学生募金（学生をピアサポーター）
 - ・「義援金運動」：R5トルコ・シリア地震・R6能登半島地震
 - ・「伝統文化継承」：技をつなぐ～こども弓道・青葉の笛伝承～



「結」の心で地域を結ぶ

私たちが豊富に持っているもの、この町 越前大野で余裕があるものを皆でシェアして役立ちたい！

大野市と言えば「名水」。福井県と言えば「繊維」。そして全国に誇る名産「すこ」。



私たちの地域の強みを生かして、世界の困っている地域や人々に何かできないか考えました。

また、大野市の過疎化や少子高齢化、農業生産人口減少といった地域課題に対して、まちおこし「つなぐプロジェクト」を行っています。

- ・コロナ禍で少なくなってしまった「世代間交流」を！地域のお年寄りや小学生を支援しています。
- ・「伝統文化」「伝統食材」の継承を！弓道、水引や組紐の「結び」、800年の篠笛「青葉の笛」継承
- ・世代や国を超える郷土銘菓「すこスコーン」の開発と販売

「すべての子どもに水と教育を

大野の水・繊維・里芋で役に立つ

1. 東ティモールの山間部ではきれいな水が手に入りやすく、女性と子どもが毎日遠くまで水くみに歩きます。このため、多くの子どもは学校に通えず、女性は仕事に就けません。



私たちの町で60年の歴史をもつ「名水マラソン」。給水所では、おいしい地下水や名水かき水が提供されます。2016年から3年間大野市はユニセフと協働してマラソンの参加費で東ティモールの水設備を支援。これにより6基の重力式給水設備が導入されました。



大生は毎年ボランティアとして運営に参加しています。小中学生以来連続出場しているランナーもいます。59・60回大会では東ティモールの現状をパネルにし、支援金も集めました。



今では、村にきれいな水が供給されるようになり子どもが学校に行けるようになり、女性も農業や水管理技術として仕事に就くことができるようになりました。ここ3年間は東ティモール大使館やマダラナ・カソツサ高校、CENEP-Tibar（水道設備研修校）と交流しています。「燈籠祭（文化節発表会）合唱部コンサート」でも水支援金を集め、設備の修繕・管理のため、支援を続けています。

2. パキスタンのスラム地区教育支援…2021年夏、福井県で「全国高校総体」が開催されました。大会終了後、役員やボランティアに支給された大量の福井産「インターハイシャツ」が不要になり…



JPSAを通して古着をパキスタンへ送ると、スラム地区に住む子どもたちの学校「アル・カイル・アカデミー」の運営にそれらの収益が使われます。校内で過去の学校祭Tシャツなども含め毎年古着を集め、これまでに107着を送りました。会報によると、同校から初めて女子学生が医科大へ進学したそうです。プシュラさん♡



3. シン・ふるさとスイーツ「すこスコーン」開発



地域を「もっとつなぐプロジェクト」

世代間交流を広げる
お年寄りスマホ支援
子ども弓道講座
オレンジリボン運動
あしなが学生募金
青葉の笛・すこをつなぐ

伝統文化をつなぐ

発展編「すこスコーン de クリームティー」

大野の恵み「白山やまぶどうジャム」「六呂師高原の牛乳」を活用し、英国風のスクーンの食べ方「クリームティー」を提案。「すこスコーン」「六呂レッドクリーム」を商標登録する。「おおのブランド」として広める。

発展編 すこスコーンで「クリーム・ティー」

白山ワイナリー
六呂レッドクリーム



福井県立大野高校 JRC「結」

2019年に3年後の「全国高校総体北信越大会」開催に向けて「生徒活動委員会」を結成。福井県へのおもてなし活動を行ってきました。大会開催以降も「地域のため、世界のため」にチーム「結」としてボランティア活動やSDGs達成のためのイベントを続けています。

2021年にはJRC「結」としてサークルを設立。県内や全国JRCとの交流、海外支援も始めました。

19名のメンバーは、若い発想力と体力、地元とのつながり、絆を生かし、参加しやすい「楽しい」ボランティア活動を目標として地域課題を探究し、創意工夫して「結」の心で活動しています。